鹿角市（鹿角工業振興会）

中小企業等伴走型
DX
推進支援事業

DX事例集

鹿角市（かづのし） 世界遺産のまち

お問い合わせ

［発行］
鹿角工業振興会（運営事務局：株式会社フォーバル）

〒018-5201 秋田県鹿角市花輪字柳田36

Tel.0186-23-5588　Fax.0186-22-4090
e-mail.kazuno-ipa@cyber.ocn.ne.jp

CONTENTS

03

CHAPTER
01 事業詳細

CHAPTER
02 支援事例紹介

04 ジョイタム株式会社
社内のDX推進

05 株式会社 田中建設
DXによるデジタルマーケティングの強化

06 株式会社 新東組
業務を楽にし、生産性を上げる

07 小伸製作所
勤怠管理の効率化とDX推進

CHAPTER 01

事業詳細

鹿角市（鹿角工業振興会）では、企業における経営の可視化から、
DXの必要性を理解し、課題把握や戦略・推進体制整備に向けた推進計画を策定、
実行する専門家を派遣して市内中小企業へサポートすることで、
市内中小企業に対し、デジタルを活用したビジネス変革の推進を取り組みました。

STEP 01

現状把握

ヒアリングの実施と直近3ヶ年決算書（最低で直近1ヶ年）を収集。現状把握を行います。

可視化

業務で扱う情報について流れ・媒体・受け渡し方法などをヒアリングします。その後、一覧表にて可視化（当社作業）いたします。

課題整理

診断結果を元に課題を整理。課題によって「**DXによる売上拡大**」「**DXによる業務改善**」「**DXによるリスク回避**」の3テーマに沿った短期～長期の目標を設定します。

STEP 02

計画書の作成

抽出した課題を解決するための計画書（ロードマップ）を作成し、
対象支援企業と課題に対する意識、方向性を共有します。

STEP 03

補助や制度のご案内

ITツールの導入にかかる費用の補助として、公的機関の各種補助や助成制度を支援企業へご案内。また、担当するDXアドバイザーが導入したITツール提供先と連携することでツールをより活用できる環境を整え、課題解決を支援します。

STEP 04

効果測定・新たな課題の抽出

ITツール導入前と導入後について、専門的な観点から効果測定を実施します。
STEP2「DX（デジタル化）計画の策定」にて作成したロードマップを元に進捗状況の整理・分析を行うことで、新たな課題への取り組み項目の割り出しを行います。

ジョイタム株式会社

所在地	秋田県鹿角市十和田毛馬内字南陣場35番地
従業員数	85名
事業内容	電気ハーネス組立（設計・部品調達・組立）、制御盤（設計・製造・組立）、装置組立（設計・組立・改造・据付工事）

社内のDX推進

現在や過去に抱えていた具体的な課題や問題点は？その課題や問題が発生した背景や原因について。

エクセルのフォーマットが複雑であり、各部門が独自のフォーマットを使用しているために情報の統合や共有が困難です。また、サーバデータの保存や使用方法にルールが曖昧でした。さらに、業務フローが可視化できておらず、口頭でのルール変更や曖昧な業務プロセスが存在していました。また、紙媒体が多すぎるため、デジタル化が進んでおらず管理が非効率です。担当者の交代や引継ぎも不明確な部分があり、新しい担当者が効率的に業務を進められないこともしばしばありました。これは引継ぎの標準化が不十分であるためです。加えて、明確なルールがないことにより共通認識がなく、変化を恐れる傾向がみられました。

この事業に参加した動機は？参加前に期待していたことや希望の成果は？

この事業に参加した動機は、DXに取り組もうと考えていたことを発信したところ、鹿角市役所より提案がありました。社内の業務プロセスがあまりにもアナログであったため、少しでも社内のDXが進み、業務プロセスが改善されることを期待してのことです。大きな成果を期待していたわけではありませんが、ほんの一歩でも変革が起こり、社内の業務効率が向上することを希望していました。

この事業を通して具体的に達成したかったことは？また設定した目標や指針について。

業務フローの見える化と規則の統一化を通じて、業務の効率性を高めることを目指しました。これにより、作業の重複や無駄な作業を削減し、効率的に業務を進めることが可能となります。また、乱雑に保存されていたサーバーデータや散らばったフォーマットを整理し、統一的かつ効率的に使用できるようにすることを目指しました。さらに、紙媒体からデジタルシステムへの移行を進め、業務フローをデジタル化することで、情報の共有と管理をスムーズに行えるようにしました。

具体的には、以下のような目標と指針を設定しました。まず、会社として抱えている課題を1つでも解決することを目標とし、社内で話し合いました。これには、エクセルフォーマットの乱雑さ、データの保存方法と使用方法のルール化、データベース化の欠如、無駄なデータ入力業務の削減、業務フローの見える化、アプリケーションの使用方法の教育などが含まれます。管理職が自社の課題をしっかりと把握することを目標としてプロジェクトを始めました。管理職が自社の課題をしっかりと把握し、それに基づいて戦略的に対応できるような体制を目指しました。これにより、課題の早期発見と効率的な対応が可能となります。また、フォーバル様との継続的な話し合いを通じて、目標およびステップを構築しました。これにより、双方の協力体制を強化し、一貫した目的達成を目指しました。

経営状態を見える化（可視化）してわかったこと、支援活動を通じて具体的に行った取り組み、その支援の内容や成果について。

基本的な業務フローを可視化することで、各部分の課題を洗い出すことができました。例えば、エクセルのフォーマットが乱雑で統一性がなく、サーバーデータの保存方法にルールがないこと、入力業務の重複や不要なデータ入力が存在することが明らかになりました。また、仕事の流れが見えていなくて効率が悪いこと、そして紙媒体の管理に依存していることが判明しました。

見えてきた課題を一つずつ解決する取り組みを行いました。解決すべきことの優先順位をつけることができ、サーバーフォルダの整理の仕方などを教えました。具体的には、ビジネスフローと業務フローの確認、データフローの作成、ペーパーレス化の推進、従業員のスキルマップ修正と教育を行いました。そして、Kintoneの導入準備を進め、入力業務の重複を削減する計画を立てました。ある程度のベンダーはあらかじめ選定しており、それをフォーバル様が認めてくれました。

未来に向けてのビジョンや目標は？具体的な将来の展望や計画について。

我々の目標は、鹿角市において売上、利益、雇用数で地域を圧倒するナンバー1企業になることです。具体的には、老若男女問わず働きがいのある企業に成長させていきます。従業員が自らの可能性を最大限に引き出せる環境を整えることが、ビジョンの実現にとって不可欠だと考えています。また、地域社会との連携を強化し、地域経済の発展にも寄与していきたいと思います。

このビジョンを達成するためには、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化および最適化を図ることが重要です。今後は増収増益を継続させることを目標としています。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩んでいる鹿角市及び企業様に対してのアドバイスやメッセージ。

DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みには多くの課題があるかと思います。特に高齢な経営者が多い地域では、一人の経営者がすべてを解決するのは難しいと感じられていることでしょう。したがって、積極的に外部の力を借りつつ、より良い企業を目指していくことが重要です。誰か一人では解決できない問題も、専門家のサポートと協力を通じて解決への道しるべを築くことができます。鹿角市の企業が一丸となってDX推進を進め、より効率的で活気のあるビジネス環境を築くことを期待しています。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2-15-1　■支援担当者：倉本 佳孝　■執筆者：津嶋 剛宏

株式会社田中建設

所在地　秋田県鹿角市花輪字大川添26番地
従業員数　19名
事業内容　土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、防水工事業、内装仕上工事業、水道施設工事業、管工事業、解体工事業

DXによるデジタルマーケティングの強化

現在や過去に抱えていた具体的な課題や問題点は？その課題や問題が発生した背景や原因について。

当社が現在および過去に抱えていた具体的な課題には、次の三つがあります。まず一つ目は「集客の減少」で、完成見学会の参加者が一日約20組程度から減少し、現在では10組以下に落ち込んでいることです。この問題の背景には、商品の競争激化や広報手法などが影響しています。二つ目の課題は「契約数の低下」で、集客減少と連動して新規契約数も減少していることです。この問題は効果的な広報が行われていないことや、見学会の参加率低下が原因と考えられます。三つ目の課題は「デジタル化の遅れ」で、デジタルマーケティング手法の未熟さや、ウェブサイトやSNSの管理が手薄なため、十分な集客効果を得られていない状況でした。

この事業に参加した動機は？参加前に期待していたことや希望の成果は？

当社がこの事業に参加した動機は、市職員からのDX（デジタルトランスフォーメーション）促進や補助金の話を受け、売上低迷を改善したいとの期待からでした。特に、完成見学会の参加者減少が契約数の減少に繋がっている現状を改善したいと思っていました。さらに、業務のデジタル化が進んでいないことによる効率の低下も認識しており、新しいデジタルツールやマーケティング手法を導入することで、これらの課題を解決したいと考えていました。集客力と商談案件を増やし、最終的には売上拡大と業務効率改善を目指しました。また、デジタル化を推進することで、従業員の作業負担を軽減し、業務全体の効率化を図ることも期待していました。具体的な成果としては、見学会の集客力の向上、新規契約数の増加、および売上の増加を達成し、企業全体のパフォーマンスを向上させることを希望していました。これにより、当社の競争力を高め、将来の成長基盤を築くことを目指していました。とりわけ、市場競争が激化する中で、新しいマーケティング手法を取り入れることで、他社との差別化を図りたいと考えていました。

この事業を通して具体的に達成したかったことは？また設定した目標や指針について。

当社が今回の事業で達成したかったのは、年間の受注棟数の増加と売上の拡大です。これを実現するため、デジタルマーケティングの強化やグーグルアナリティクスによるターゲット顧客の動向把握を目指しました。また、見学会参加率を高める施策や顧客対応の強化を通じて成約率を向上させることも目標にしました。特にデジタルマーケティングを活用し、過去に積極的に取り組んでいなかったデジタル手法により、集客力をアップさせることを目指していました。

グーグルアナリティクスなどのツールを十分に活用していなかったため、今回の事業支援を通じてウェブ関連の分析を行い、集客状況や課題を明確にしたいと考えました。

特に重視していたのは、集客力の減少を克服し、新規契約数の増加を実現することです。デジタルマーケティング手法を効果的に導入・運用し、商談案件の増加と売上拡大を目指しました。

経営状態を見える化（可視化）してわかったこと、支援活動を通じて具体的に行った取り組み、その支援の内容や成果について。

当社では、経営状態の見える化を図るためにグーグルアナリティクスを活用し、ウェブサイトの訪問者の行動や関心を詳細に解析しました。その結果、訪問者が主に会社情報を閲覧し、完成物件ページへのアクセスや問い合わせが非常に少ないことが判明しました。この問題に対処するため、継続的にグーグルアナリティクスを用いてウェブサイトの訪問者行動を定期的に解析し、解析結果を基に閲覧数が多いページの内容充実や問い合わせ誘導の見直しを行いました。

内部業務の効率化としては、顧客管理システムや現場管理システムの導入を検討中であり、これを具体化することで顧客対応の迅速化や施工進捗管理の向上を目指したいと考えております。また、これらの取り組みにより、ウェブサイトの訪問者の滞在時間や問い合わせ数の増加、見学会の参加率と成約率の向上、内部業務の効率化を実現し、持続的な成長と顧客満足度の向上を目指します。さらなる成長を目指して取り組んでいく予定です。

未来に向けてのビジョンや目標は？具体的な将来の展望や計画について。

現在、当社は特に明確な目標を持っていませんが、いくつかの取り組みを通じて将来の方向性を見つけたいと考えています。具体的には、グーグルアナリティクスを用いたウェブサイトの解析と改善、デジタルマーケティングの強化、完成見学会の参加率向上、内部業務の効率化を目指しています。これらの取り組みを通じて、訪問者の滞在時間や問い合わせ数の増加、見学会の参加率と成約率の向上、顧客対応の質の向上を実現し、持続的な成長と顧客満足度の向上を目指します。具体的なビジョンはまだ定まっていませんが、データを基に改善を重ね、方向性を確立していきたいです。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩んでいる鹿角市及び企業様に対してのアドバイスやメッセージ。

デジタル化やDX（デジタルトランスフォーメーション）に悩んでいる企業の皆様へ。

今回の事業でDXが何かを初めて理解し、そのおかげで私たちも少しずつ取り組みを進めてきました。小さな成功体験を重ねることで、デジタル化が徐々に進んできました。費用や時間がかかるかもしれませんが、長期的には効率化と生産性向上につながります。一歩ずつ着実に進めていくことが大切です。皆様も焦らずに、少しずつ取り組むことで、大きな成果を手に入れましょう。頑張ってください。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2-15-1　■支援担当者：倉本 佳孝　■執筆者：津嶋 剛宏

株式会社新東組

所在地	鹿角市八幡平字永代地50番地
従業員数	32名
事業内容	土木工事業、とび・大工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、鋼構造物、解体工事業、管工事工事業

業務を楽にし、生産性を上げる

現在や過去に抱えていた具体的な課題や問題点は？その課題や問題が発生した背景や原因について。

重点的に改善したい課題は大きく分けて2つありました。一つは現場毎で使用する車両の予約管理で、もう一つは現場代理人の残業の軽減です。。

①車両予約管理はホワイトボードで管理しており、都度電話確認が必要で手間がかかっています。気象状況や週末等に予約が重なり支障がありました。

②現場代理人への課題は施工管理・書類作成・発注者対応などを1人で担い、業務負担が大きい上に、デジタル化も遅れていました。さらに、2024年の労働時間規制により、早い対策が求められていました。

この事業に参加した動機は？参加前に期待していたことや希望の成果は？

これまでもデジタル化を検討しましたが、「どこから手をつけるべきか」「何を導入すべきか」が不明確でした。そのため、専門家の支援を受け、最適な解決策を見つけることが参加の動機です。経営陣や従業員の意見は、「補助金を活用すればコストを抑えられる」「使いこなすのが難しそう」などがあり、特に後者が多い印象でした。

期待する成果は 現場で使いやすいシステムの導入、DX推進のノウハウ蓄積、生産性向上による利益率の改善 でした。

この事業を通して具体的に達成したかったことは？また設定した目標や指針について。

具体的な目標として、まず車両予約管理の効率化：予約・キャンセル・変更をリアルタイムで反映させます。DXは誰でも使いやすいシステムを選定し、現場代理人のみに負担が集中しないよう、社内体制を構築していきます。目標決定までのプロセスは、現場代理人や従業員からのヒアリングを実施し、課題を特定し、次に、経営陣と現場の意見を調整し、業務負担を増やさず効果が出る範囲で成果指標を設定しました。その後、フォーバルさんと相談し、業界での成功事例を参考に最適なDX施策を検討しました。

経営状態を見える化（可視化）してわかったこと、支援活動を通じて具体的に行った取り組み、その支援の内容や成果について。

データの可視化により、現場の課題が明確になりました。

現場代理人の業務負担 に関して、繰り返し作業や手入力の多さが非効率の要因である事から。解決策として、車両予約管理システムと電子小黒板アプリを試験運用し、導入することを決定しました。また、後回しになっていた 従業員のストレスチェックや情報セキュリティ規定の整備 についても、他社事例を参考に具体的な提案を受け、自社に適した運用を進めることができました。

車両予約管理は、LINEのチャット機能を活用。既存システムは機能過多で高コストだったため、使い慣れたLINEで予約管理を行うことにしました。これにより、現場の誰もが操作でき、スムーズな導入が可能と判断しました。

現場代理人の業務軽減には、クラウドと電子小黒板を導入。工事写真管理は、既存の「デキスパート」シリーズで統一。電子小黒板「SiteBox」、クラウドの「KSデータバンク」「写管屋クラウド」、iPadを導入しました。クラウドを活用することで現場と事務所の情報共有がスムーズになり、写真整理の手間も省け、業務効率の向上が期待できます。運用はこれからですが、大きな効果を見込んでいます。

未来に向けてのビジョンや目標は？具体的な将来の展望や計画について。

業務の効率化と働きやすい環境づくりを進め、着実な成長を目標としています。

【3年後】DXを業務に定着させ、効率化と働き方改革を推進。働きやすい環境を整え、人材定着率の向上を目指す。

【5年後】DXによる業務効率化を進め、負担の少ない働き方を実現。社内だけでなく地域企業とも連携し、業界全体の生産性向上に貢献。

【10年後】DXを活用し、変化に対応できる柔軟な体制を築き、安定成長を続ける企業を目指します。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩んでいる鹿角市及び企業様に対してのアドバイスやメッセージ。

問題意識はあっても何をどこから手を付けたら良いのか解らず、長い間悩んでいました。伴走型DX推進支援事業に参加したことで、DXの進め方を学び、無理なく取り組むことができました。この事業の魅力は企業ごとの課題に寄り添いながら、一緒に最適な方法を考えてもらえることです。DXは企業にとって新しい負担ではなく、業務を楽にするチャンスだと思います。まずは今困っていることを少しでも楽にするという視点で小さな改善から始めることが重要です。。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2-15-1　■支援担当者：倉本 佳孝　■執筆者：津嶋 剛宏

小伸製作所

所在地	秋田県鹿角市尾去沢字六角平33-1
従業員数	19名
事業内容	弱電電子部品加工

勤怠管理の効率化とDX推進

現在や過去に抱えていた具体的な課題や問題点は？その課題や問題が発生した背景や原因について。

タブレットを用いて作業報告書をデジタル化する試みがありましたが、タブレットのハードウェアが劣化し、紙の運用に逆戻りしてしまいました。これには、ハードウェアの更新や定期的なメンテナンス計画が不足していたことが原因として挙げられます。加えて、勤怠管理が全て手作業で行われており、集計に時間がかかりミスの原因にもなっていました。社員教育に関しては、統一された教育プログラムが無かったため、社員により業務の質や方法にばらつきが見られました。これらの問題は、全体的な業務効率の低下と生産性の低下を招いていました。

この事業に参加した動機は？参加前に期待していたことや希望の成果は？

この事業に参加した動機は、手書き業務の非効率さを解消し、デジタル化により業務効率を劇的に改善したいという強い意志があったからです。従来の手書き業務では、情報の管理が煩雑となりミスも生じやすく、多くの時間を費やしてきました。そのため、デジタルツールの導入によって、迅速で正確な情報管理が可能となり、業務フローの効率化を図ることを期待していました。また、デジタル化を通じて業務標準化を実現し、社員間のばらつきを解消することで、全体の生産性向上を目指していました。このように、プロジェクトの成果としては、長期的な視野で業務プロセスの効率化と労力の軽減を図り、会社全体の生産性向上を期待していたのです。

この事業を通して具体的に達成したかったことは？また設定した目標や指針について。

多角的な視点で作業効率を向上させるため、さまざまな業務改善を行い、コストをなるべく抑えつつ勤怠システムの有効活用を実現することが目標です。この事業を通じて具体的に達成したかったのは、業務プロセスの全面的なデジタル化と運用の効率化です。第一の目標は、劣化したタブレットの再運用および電子作業報告書システムの完全再構築です。次に、手動勤怠管理のデジタル化を進め、勤怠管理の自動化と効率化を実現することです。指針としては、業務システムの見直し、計画的なデバイス更新およびメンテナンスの確立を重点に置きました。

経営状態を見える化（可視化）してわかったこと、支援活動を通じて具体的に行った取り組み、その支援の内容や成果について。

経営状態を可視化した結果、以下の問題点が明確になりました。まず、作業報告書のシステムが導入されているものの、タブレットの劣化によって紙運用が続いていることから、デジタル化が不十分であると判明しました。さらに、勤怠システムが未だタイムカードを使用しており、手作業での管理による非効率さが露呈しました。また、社員教育が統一されておらず、作業のクオリティと方法にばらつきが存在することも確認されました。これらの問題を解決するために、支援活動では次のような取り組みを行いました。まず、業務フローの確認と問題点の洗い出しから始め、タブレットの再利用とシステムの見直しを検討しました。具体的には、Androidタブレットのコスト見積もりを提供し、商工会セミナーの情報を活用しながら、ラズベリーパイを用いて効率的な勤怠システムの資料を収集しました。その後、QRコードを使用したHARMOS勤怠システムのデモンストレーションを実施し、共有タブレットでの打刻による高コストパフォーマンスを実現する方法を提案してくれました。この方法で、ユーザーの要望を反映しつつ、QRコードと共有タブレットによる勤怠管理を決定しました。システム設定後、従業員情報の登録を行い、新システムの運用を開始しました。

未来に向けてのビジョンや目標は？具体的な将来の展望や計画について。

私たちは、未来に向けてAIをはじめとするデジタル技術の革新が業務効率と情報管理の飛躍的な向上に寄与すると確信しています。その中で、特に注力したいのは、情報取得とデータの自動化です。具体的には、従業員の作業記録をデジタルで自動的に取得し、そのデータを活用して業務フローの最適化や迅速な意思決定を支援するシステムの構築を計画しています。例えば、AI技術を導入し、作業データの分析や予測機能を取り入れることで、問題の早期発見や改善提案を自動的に提示することが可能になります。また、デジタル技術を駆使した教育プログラムを導入し、社員が最新の技術と知識を継続的に学べる環境を整備します。これにより、社員のスキルアップを支援し、業務の質をさらに向上させることが目標です。長期的には、デジタルインフラの強化と社員教育を通じて、持続可能な経営基盤を築き、企業の成長と社会に貢献できる組織として発展していきたいと考えています。

現在デジタル化やDXへの取り組みに悩んでいる鹿角市及び企業様に対してのアドバイスやメッセージ。

1人で考えていると、なかなか良い答えが見つかりにくいと感じることが多いかと思います。そのため、専門家の意見を積極的に取り入れることを強くお勧めします。専門家は最新の技術動向や他社の成功事例に精通しており、企業ごとの課題に応じた具体的なアドバイスを提供できます。これにより、最適な解決策を見つけやすくなります。デジタル化には、専門家の知見の活用、段階的な導入、従業員教育、そして組織全体での協力が不可欠です。これらのポイントを意識しながら、前向きに取り組んでいくことが重要です。どうぞ一歩ずつ進んでいってください。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2-15-1　■支援担当者：倉本 佳孝　■執筆者：津嶋 剛宏